

令和3年度 学校評価書

評価基準

4、A(期待以上…8割以上)	3、B(ほぼ期待通り…5～8割)	2、C(期待を下回る…2～5割)	1、D(改善を要する…2割未満)
----------------	------------------	------------------	------------------

都城市立西中学校

本年度の重点目標		評価項目	生徒	保護者	教師	学校の自己評価コメント	自己評定(総合)	学校運営協議会評価	学校運営協議会コメント
豊かな心の育成	命を大切に、感謝の気持ちを育てる。	① 生徒の悩みや相談に適切に対応している。	3.4	3.0	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育相談は実施できたが、時間が十分ではなかった。学級担任を中心に学年職員で時間の確保に努めた。相談週間にとられず、いつでも相談できる教師と生徒の関係づくりを続けていく必要がある。 ○ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと積極的に連携し、専門家を交えた相談活動を実施できた。 ○ 参観日や人権教育週間において、共通のテーマで道徳の授業を実践できた。また、生徒の感想を掲示し、多様な考え方に接することができるようにした。 ○ 部活動の大会等との兼ね合いで参加できない生徒もいたが、計画通り奉仕作業が実施でき、親子で一生懸命取り組んでもらった。 ○ 無言清掃ができています。自ら気付いて取り組む清掃を目指している。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日頃からいつでも相談できる雰囲気づくりが大切だと思うが、今後もスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門機関の活用も含めて、生徒がいつでも相談できる体制を整えてもらいたい。 ○ 感染拡大防止のため学習活動の制限や部活動の停止等で、生徒がストレスを抱えているのではないかと心配であるが、教育相談の時間をこれまでより多く確保し、心のケアに努めている。 ○ PTA活動の一環として2回の親子ふれあい奉仕作業を実施したが、生徒、保護者とも積極的に取り組んでもらった。
		② 生徒は、ありがとうの気持ちを進んで示している。	3.6	3.2	2.9				
		③ 生徒は、楽しそうに学校に通っている。	3.5	3.3	3.2				
	清掃や奉仕活動等を家庭で体験させる。	④ 生徒は、家庭で清掃や手伝いをし、きれいな環境で生活できている。	3.4	2.9	3.0				
		⑤ 生徒は、親子奉仕作業や清掃活動に参加している。	3.3	3.3	3.1				
基礎的・基本的な生活習慣の定着	規範意識を身に付けさせる。	⑥ 生徒に校則や社会のルールを守る指導ができています。	3.6	3.3	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校則について見直しを求める生徒や保護者も多い。生徒会活動と連携しながら、時代の流れに沿うよう見直しをしていく予定である。 ○ 本校職員や宮崎県弁護士会が講師となって、ネット上でのいじめ防止に関する指導を行った。今後も情報モラルやスマホ等、情報端末機の取扱いについても指導していきたい。 ○ 生徒のあいさつは概ね良好であるが、あいさつができない生徒も見られる。大きな声であいさつができるように指導していきたい。 ○ 提出物について提出することや提出期限を守ることの意義を理解させる指導をしていきたい。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校則にはある程度の厳しさも必要である。学校評価アンケートや代表生徒による検討委員会が出された意見をもとに、校則について具体的に見直しをしている。今後も時代の流れに沿った校則となるようにしてもらいたい。 ○ 学校でタブレットPCを使った誹謗中傷等のいじめは起きていないが、今後も代表生徒による検討委員会での使用上のルール作りや職員の指導によりいじめ防止に努めて欲しい。 ○ 生徒は地域でも元気よくあいさつをしている。あいさつは社会人の基本でもあるので、今後もあいさつがしっかりできる生徒を育成して欲しい。
	基本的な生活習慣を身に付けさせる。	⑦ 生徒は、時間を守って行動することができている。	3.5	3.3	3.0				
		⑧ 生徒は、あいさつは「いつでも、どこでも、自分から」を実践できている。	3.5	3.2	2.9				
		⑨ 生徒は、提出物を期限内にきちんと提出できている。	3.5	3.3	2.8				
学習意欲の向上	確かな学力の定着を図る。	⑩ 生徒は、基本的な学習習慣を身に付けている。	3.3	3.0	2.9	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICTを活用した授業を今年度より開始した。職員も授業で積極的に活用し、生徒も意欲的に取り組んでいる。今後は、学習意欲の向上や学力向上とICT活用の相関性を検証したり、活用方法を研究したりするとともに、在宅でのオンライン授業など不登校対応や個別指導への活用を模索していきたい。 ○ 数学科と英語科でTTや少人数指導を実践した。習熟度に応じた少人数指導など授業形態の工夫や授業外での個に応じた指導を模索していきたい。 ○ 宅習がマンネリ化している生徒や重要性を感じていない生徒が多い。個別最適な学習が求められる中、家庭学習の在り方について見直しをしていく必要がある。 ○ 今年度も漢字検定、英語検定、数学検定等の検定試験を受験した。今後も奨励はしていくが、受験には費用もかかるため、検定試験に替わる学習意欲の向上のための手立てをとる必要があると考える。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT活用により生徒は意欲的に学習に取り組むようになる等その効果は十分理解できるが、「書く力」の育成も大切にしたい。 ○ 不登校の生徒やコロナ不安で登校できない生徒にはタブレットPCを持ち帰らせ、学習機会を保障している。 ○ Wi-Fi環境が全家庭で整っていないことや宅習帳の廃止により、今後生徒に学力格差が生じないような手立てをとって欲しい。 ○ コロナ禍の中、学習活動において様々な制限があるが、細心の注意を払い創意工夫された授業のおかげで、生徒は落ち着いて授業に取り組んでいる。
		⑪ 生徒が分かりやすいように、授業を工夫している。	3.5	3.0	3.1				
		⑫ それぞれの生徒にあった指導の工夫をしている。	3.4	2.9	2.9				
		⑬ 生徒は、家庭学習に意欲的に取り組んでいる。	3.3	2.8	2.8				
	学習意欲の向上を図る。	⑭ 生徒は、漢字検定、英語検定など検定試験に意欲的に参加している。	2.5	2.6	2.8				
⑮ 生徒は、校内の漢字コンクールなどのコンクールに意欲的に取り組んでいる。		3.1	2.7	3.0					
学校運営協議会と協議連携や地域	ボランティア体験学習の積極的に推進する。	⑯ 生徒は、ボランティア活動など学校や地域の行事に積極的に参加している。				<ul style="list-style-type: none"> ○ 感染拡大防止のため、地域のあらゆる行事が中止となり、生徒の貢献の場や地域人材の活用の機会が少なかったが、次年度は地域の期待に応えられるようにしたい。 ○ ホームページやメールでの情報発信は好評であったが、今後は送信内容の精選など工夫を重ね、保護者や地域との信頼関係を高めていきたい。 ○ 評価項目を含め、学校評価を検討し、生徒、保護者、地域の願いを学校経営により反映できるよう工夫していきたい。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者も含めて、もう少し地域と関わることを大切にしたい。地域はいつでも喜んで受け入れる準備はできている。 ○ 来年度以降は、感染拡大防止のため中止となった分まで、学校と地域との連携を深めていきたい。 ○ コロナ禍の中、リモートで地域の福祉施設等との交流ができています。今後でもできる範囲で交流の在り方を検討して欲しい。 ○ ホームページやメールでの情報発信は効果があり、学校の様子が良くわかる。
	地域と連携した教育活動の推進	⑰ 教育活動に地域の人材を積極的に活用している。	3.4	2.9	2.4				
	家庭や地域へ情報を積極的に発信する。	⑱ 学級便り、ホームページ、メールなどを通して、積極的に情報を発信している。	3.4	3.4	3.3				